

3step方式の段階別問題演習と成績判定で、身につけた知識の再確認&実力アップ！

「今まで身につけた知識を忘れないようにコンスタントに答練を受けたい」「自分が把握していない知識の穴を見つけて、弱点補強をしたい」「とにかく問題を解きたい」という受験経験者の方のために作られた専用答練です。スーパー答練は3step方式になっています。「1st stage（ホップ編）」では各科目の基礎力を確認します。「2nd stage（ステップ編）」では解答時間を厳しく制限して実戦力を養い、「3rd stage（ジャンプ編）」は「ミニ模試」として、全範囲（文章理解を除く）から出題をします。このように段階別に学習を進めていくことで、本試験に必要な知識を着実に身につけることができます。

【スーパー答練 2nd stage（行政法①）出題】

分野	番号	テーマ	正	重要度	注
数	2	通商手続	4	★	
不	3	審判官の選任	1	★★	
裁	4	審判官の審判	1	★★	
審	5	執行停止	3	★	
費	6	手続終了	3	★	
法	7	審判官と裁判官の職掌の比較	4	★	
	8	抗告の効力	5	★★★	
行	9	抗告の効力	4	★★★	
政	10	抗告の効力	3	★★★	
事	11	抗告の効力	4	★★★	
裁	12	抗告の効力	2	★★	
審	13	執行停止	1	★	
法	14	執行停止	2	★★	
裁	15	執行停止	5	★★★	
審	16	執行停止の効力	3	★★★	
法	17	執行停止の要件	2	★★	

【統一（多肢選択式）】

分野	番号	テーマ	正解	重要度	備考
行政法	1	救済訴訟の判決	ア・イ・ウ・エ・ロ	★★	

【記述式】

分野	番号	テーマ	正解例	重要度	備考
行政法	1	訴訟類型	裁判官と審判官、審判官と審判官の職掌の比較や執行停止に関する訴訟についての訴訟。(45字)	★★	

※「問題演習」は各問題のテーマにおける出題の本試験法問題を示しています（例：「21-3」は平成年度問題より出題されたことを示しています）。

— (TAC) 無断転載・複写を禁じます —

問題 4 行政事件訴訟法（原告適格）

重要度★★★

1 × 判例（最判平成13.10.15）は、海外施設の周辺において居住し又は事業（廃棄物等に係る事業を除く）を営むにすぎない者や、廃棄物等の利用者は、位置関係等を理由として海外施設の設置許可の取消しを求める原告適格を有しないとして、海外事業参加施設周辺の周辺に居住する者原告適格を否定しています。

2 × 判例（最判平成14.1.22）は、総合設計許可に係る建築物の問題、並し等により「座落」した建築物を受けることが予想される範囲の土地を所有する者は、総合設計許可の取消しをする者として、その取消訴訟における原告適格を被告を受けることが予想されるにすぎない者として、原告適格を肯定しています。

3 × 判例（最判平成13.3.13）は、森林法に基づき林分について、周辺住民の生命・身体の安全等は保護する土地の所有権者の財産権の保護までを個人個人の側とする趣旨を含まないことではないとして、林分、樹木等所有に必要と所有する者の所有権を理由として、原告適格を肯定しています。

4 ○ 判例（最判平成17.12.7）は、都市計画事業の事業が当該事業が実施されることにより騒音・振動等の害しい被害を直接的に受けるおそれのある者は、当該事業の取消しを求める訴訟において原告適格を有する者として、原告適格を肯定しています。

5 × 判例（最判平成17.12.7）は、都市計画事業の事業が当該事業が実施されることにより騒音・振動等の害しい被害を直接的に受けるおそれのある者は、当該事業の取消しを求める訴訟において原告適格を有する者として、原告適格を肯定しています。

【関連過去問】 18-44、22-15

【成績表見本】

座スーパー答練 200 21-7 行政法 第2回 成績表

100/100 平均点 67.8 100

順位 17/100

総合評価 A

9

10

11

あなたの成績履歴

回	科目	順位	平均点	最高点	最低点
第1回	行政法	14	68.1	75	60
第2回	行政法	12	68.1	75	60
第3回	行政法	14	68.1	75	60
第4回	行政法	14	68.1	75	60
第5回	行政法	14	68.1	75	60
第6回	行政法	14	68.1	75	60
第7回	行政法	14	68.1	75	60
第8回	行政法	14	68.1	75	60
第9回	行政法	14	68.1	75	60
第10回	行政法	14	68.1	75	60
第11回	行政法	14	68.1	75	60
第12回	行政法	14	68.1	75	60
第13回	行政法	14	68.1	75	60
第14回	行政法	14	68.1	75	60
第15回	行政法	14	68.1	75	60
第16回	行政法	14	68.1	75	60
第17回	行政法	14	68.1	75	60
第18回	行政法	14	68.1	75	60
第19回	行政法	14	68.1	75	60
第20回	行政法	14	68.1	75	60

【解説見本】

成績分析データ

200 21-7 行政法 第2回

平均点 67.8 点

難易別選択率一覧表

難易度	選択率	正答率
1	100.00%	100.00%
2	100.00%	100.00%
3	100.00%	100.00%
4	100.00%	100.00%
5	100.00%	100.00%
6	100.00%	100.00%
7	100.00%	100.00%
8	100.00%	100.00%
9	100.00%	100.00%
10	100.00%	100.00%
11	100.00%	100.00%
12	100.00%	100.00%
13	100.00%	100.00%
14	100.00%	100.00%
15	100.00%	100.00%
16	100.00%	100.00%
17	100.00%	100.00%
18	100.00%	100.00%
19	100.00%	100.00%
20	100.00%	100.00%

【成績表見本】

① 出題分野・テーマを明示

問題になった分野・テーマを明示しています。間違った問題がどの分野・テーマだったのかを把握することで、弱点の発見と補強に役立ちます。

⑤ 詳細な解説

単に正解・不正解を示すだけでなく、根拠条文・判例を明示しています。復習の際に、条文・判例学習の役に立つだけでなく、その周辺知識も確認することで、理解がぐっと深まります。

⑧ 選択肢ごとの解答率

どの選択肢をどれだけの人が選択したか知ることができます。とくに、ご自身が間違えてしまった問題に対して、同じ間違いをしてしまった方がどの程度の割合でいたかを把握することができます。

② ④ 重要度

効率的に学習できるように、各問題に「重要度」をつけています。「★★★」は最も重要で間違えてしまった場合は絶対に復習すべき問題、「★★」は可否を分ける問題、「★」は余力があれば確認しておく問題となっています。解説本文にも重要度をつけています。復習の際に、参考にしてください。

⑥ 関連過去問

出題テーマに関連した過去問情報（出題年度・問題番号）を記載しています。スーパー答練では、今は本試験に出題されていないものの、今後出題が予想される論点も出していきます。まずは関連過去問を確認し、その上で周辺知識を深めてください。

⑨ 相対的位置が分かる

平均点・順位・総合評価が出ますので、スーパー答練を受講された方のなかで、ご自身がどのくらいの位置にいるのか、また、ご自身の得点が平均を超えているかなど、自分の実力を知る上でのバロメーターとなります。

⑩ 設問ごとの正答率

各設問で正答率が出されますので、得点すべき問題が正解しているかどうかの確認をすることができます。正答率が高いということは、その問題を優先的に復習しないといけないことが分かります。

③ 多肢選択・記述式問題も出題

科目の出題傾向に応じて、憲法では多肢選択、民法では記述式、行政法では多肢選択・記述式問題を出題します。早期から多くの問題に触れることで、多様な出題に対応できる力を養います。

⑦ 得点分布表

スーパー答練を受講された方全体の得点分布です。ご自身がどのくらいの位置にいるのか、ひと目で把握することができます。

⑪ 過去の成績履歴

過去受講したスーパー答練の成績が履歴として残ります。今までの振り返った際に、得意科目・分野と苦手科目・分野を把握することができ、効率のよい復習の手助けとなります。